

歴史と文教の城下町

広報

たかなべ

2020

11

No.427

**俳優・黒岩司さんが
ふるさと応援大使に就任！**



俳優・黒岩司さんが「高鍋町ふるさと応援大使」に就任されました。
12ページに関連記事を掲載しています。

持田遺跡で 地下式横穴墓 2基を発見



▲ 1号地下式横穴墓（左）と2号地下式横穴墓（右）

町の持田遺跡で、初めて地下式横穴墓（ちかしきよこあなぼ）2基が発見されました。小丸川以北で初めて見つかったこの地下式横穴墓は、持田古墳群の価値を見直す重要な発見です。

また、今回見つかった金銅製馬具（こんどうせいばぐ）や、今まで持田遺跡で見つかった大陸系磨製石器群（たいりくけいまいせいせっきぐん）、銅鏡（どうきょう）などは、中国大陸や朝鮮半島と強い関係性を有していたことの証であり、東アジア圏との交流史の中で持田古墳群を評価する必要性を示しています。

なお、この地下式横穴墓は津波対策の避難道としての役割を担う町道建設の調査で見つかったもので、調査が終わる令和2年中に取り壊される予定です。

場所

国指定史跡「持田古墳群」内（調査地点は未指定地）。地下式横穴墓はこれまで小丸川以南（町内の牛牧古墳群が北限）で確認されていましたが、今回小丸川以北で初めて発見され、分布域の北限を更新しました。

造られた時期

古墳時代後期（7世紀前半）

2基の特徴

高鍋町や西都市など、児湯郡に特徴的な長大化（墓道化（ぼどうか））した竪坑を持ちます。

地下式横穴墓とは

地下式横穴墓とは、5世紀前半から7世紀前半にかけて、宮崎県中南部や鹿児島県大隅地方周辺で採用された墓制です。

入り口となる竪坑（たてこう）、遺体を埋葬する部屋である玄室（げんしつ）、竪坑と玄室をつなぐ通路である羨道（せんどう）で構成されます。

竪坑を掘り下げた後、横方向に羨道を掘り進み、玄室を造ります。

埋葬後、多くの地下式横穴墓では、羨道を石や土、板などで塞ぎ、竪坑を土で埋め戻し、玄室は空洞のまま地中に残されます。



▲ 地下式横穴墓の模式図

（出典：宮崎市生目古墳群資料）

2号地下式横穴墓



▲ 2号地下式横穴墓



▲ 1号地下式横穴墓

1号地下式横穴墓

特徴

- ・玄室内の奥壁に沿って人頭大の石7つが2列に配置されていました。棺もしくは板に乗せた遺体を置くための台と思われます。
- ・床面から約40センチメートルほど浮いた位置に人頭大の石1つが出土しました。

出土品

- ・玄室内の手前側には床面上に耳環（じかん）3つ、須恵器（すえき）10個が出土しました。

特徴

- ・初めに馬具を伴う人の埋葬があり、その後およそ30年ごとに2回、合計3回の埋葬が行われました。墓の天井の崩落後も再び埋葬が行われており、この墓への強い執着が認められ、一族意識、氏の意識の高まりが感じられます。
- ・崩落した天井の層の上（床面から約30センチメートル上）に、奥の壁に沿って遺体を安置するための礫床（れきしょう）が設けられ、その右端付近に多くの須恵器や土師器（はじき）が重なって出土しました。

出土品

- ・床面に金銅製馬具（辻金具（つじかなぐ）4つ、鉸具（かこ）3つ）、須恵器蓋坏（すえきふたつき）6つが出土しました。馬具の周囲には、革ベルトとみられる黒い膜状のものが見られます。金銅製馬具がセットで出土したのは県内では7例目で、埋葬された人物が中央や朝鮮半島と関わりのある、地域の有力者であったことを示しています。
- ・礫床から更に20センチメートル上の埋土から人頭大の石7つ、須恵器2個が出土しました。
- ・土師器や須恵器など多くの容器類が見られ、その中には貝殻が入ったものも確認されました。



▲ 金銅製馬具



▲ 須恵器蓋坏



▲ 上からの内部の様子



▲ 中からの内部の様子

災害に備えて避難所を把握しよう

9月上旬に九州を通過した台風10号では、町内に6カ所の避難所が開設され、避難者は合計1,300名を超えました。9月6日14時から開設された各避難所の状況は、高鍋町メールや町LINE公式アカウントから随時情報発信されました。

改めて町内13カ所の避難所の場所を確認しましょう。なお、避難状況によっては、避難所が満員となることも予想されます。この機会に是非、町の情報発信ツールの利用を始め、最新の防災情報を入手してください。



▲高鍋町体育館での避難の様子

高鍋町防災情報配信システム(SOSネットワーク)

地震、津波、洪水など、防災や防犯に関する情報を配信しています。日頃からの備えのため、多くの町民の皆さまのご登録をお願いいたします。

右のQRコードを読み取り、サイトに接続後、手順に従って登録してください。



町公式SNS一覧



高鍋町
Facebook



高鍋町
LINE

SNS一覧ページ



指定避難場所一覧

名称	住所	海拔	名称	住所	海拔
高鍋町防災センター (役場来客用駐車場内)	上江8437	7.7m	東児湯消防組合	上江4526	10.2m
たかしんホール (高鍋町中央公民館)	上江8113	6.2m	農業大学校体育館	持田5733	62.2m
高鍋町体育館	上江8339	6.0m	高鍋農業高等学校体育館	上江1339-2	5.6m
井上商店スポーツセンター (高鍋町スポーツセンター)	上江7790	64.4m	めいりんの湯	上江6900	52.7m
高鍋西中学校体育館 ※洪水時を除く。	持田1524	6.3m	高鍋町ふれあい交流センター ※福祉避難所	上江7785	74.1m
南薩食鳥宮崎工場	持田1991	11.4m	(福)晴陽会 うからの里 高鍋事業所 ※福祉避難所	上江7778	69.0m
高鍋西小学校体育館	上江1951	7.8m			

地域防災マネージャーコラム☆Vol.13 『台風10号:高鍋町民の防災意識』

令和2年度は、太平洋高気圧のせいなのでしょう、大きな台風が襲来していません。台風10号も勢力を弱めて西に逸れ、14号も大きな被害を受けることなく過ぎました。昨年度から、台風の経路も含めて例年にない傾向が見られます。

さて、9月に九州西方を通過した台風10号ですが、気象庁や各メディアは「暴風特別警報級の台風」と予想し、「早めの災害対策を」と繰り返し報道していました。そのためか、本町の避難者は合計1,300名を超え、平成17年台風14号の記録に次ぐ避難者数になりました。報道等の内容からすれば避難は当然だろうということもできますが、県内26市町村別人口に対する避難者の割合を見てみると、高鍋町(20,100人)の避難率は8番目に多く6.49%です。一方、避難対象地域の人口(8,943人)に対する避難者の割合の場合は4番目になり、14.68%となります。

土砂災害警戒区域が多い町村の避難率が高い(1位~3位:14~16%)のは当然だと思いますが、平野部における高鍋町の避難率は抜きん出ています。(最低は0.92%)高鍋町にこれだけ多くの避難者がいるというのは、平成17年の記憶があることも考えられますが、それ以上に町民の防災意識の高さの表れだと感じます。

災害は突然やってきます。日頃から、心の備え、物の備えを怠らずに災害に打ち勝つ準備をしておきましょう。

防災マネージャー 織田 範之





認知症とともに

私たちの暮らす日本は、世界有数の長寿国であると同時に、高齢化に伴う認知症の増加とその対策が課題になっています。

2025年には、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人が認知症に罹患する見込みです。もちろん高鍋町も例外ではありません。

認知症であっても住みやすい町にするために、町で行われている取り組みなどをご紹介します。



▲認知症サポーターキャラ
パンのマスコットキャラ
クター ロバ隊長

● ● TSUTAYAたかなべ店との取り組み ● ●

今年9月、世界アルツハイマー月間（認知症啓発月間）の啓発活動の一環として、TSUTAYAたかなべ店の店内に、認知症に関する本やDVDの紹介コーナーが作られました。

1週目は「本人の気持ち」、2週目は「絵本」など、認知症についての本やDVDをテーマごとに週替わりで特集し、高鍋町認知症サポート医である黒木内科医院の黒木宗俊院長推薦の本の紹介や、認知症サポーター手作りのポップなどを飾って紹介しました。

また、同時開催で認知症地域支援推進員による出張相談会や、児湯准看護学校の学生たちによる血圧測定などが行われました。



▲ポップを作ってくれた大木彩加ちゃん



▲TSUTAYAたかなべ店の飾りつけ



▲コーナーの飾りつけをしてくれた児湯准看護学校の学生の皆さん

認知症架け橋川柳



▲町内各所に掲揚された認知症架け橋川柳のぼり旗

2016年から毎年、認知症を身近に感じ、関心を持ってもらうことを目的に、高鍋町社会福祉協議会が企画しています。

季語等にこだわらず「認知症」に関する日常の風景やほほえましいエピソードを募集し、入賞作品はのぼり旗に採用されます。

／ サポーターに
なりませんか？ ／



▲「認知症介護者のつどい」
会長 與那城耐さん

認知症サポーター

認知症を正しく理解して、認知症の方やその家族の応援者となる認知症サポーターを養成しています。認知症の教材を用いて、分かりやすく説明します。

2020年11月1日現在のサポーター数は2,943人です。認知症を自分自身の問題と認識し、友人や家族に学んだ知識を伝えること、認知症の方やその家族の気持ちを理解しようと努めることもサポーターの活動です。



▲なでしこ保育園での認知症サポーター養成講座の様子



▲講座修了者がもらえる「オレンジリング」

オレンジカフェ

オレンジカフェとは、認知症の方やその家族、地域の方、どなたでも気軽に参加できる場所です。何でも話せる息抜きの場所、情報交換の場として親しまれています。お茶を飲みながらゆっくり過ごしませんか。

運営中のオレンジカフェ：東平原オレンジカフェ、スイカサロン、オレンジカフェうたごえ、オレンジカフェはまぼう

※詳しくはガイド本「まちのて」をご覧ください。



▲オレンジカフェはまぼうでの団らんの様子



▲高鍋町地域包括支援センターの職員の皆さん

遊びにきてね

／ 読んでみてね ／



▲健康保険課介護・高齢者福祉係 安部真理子さん

まちのて

今年9月、「認知症あんしんガイド」を改訂し、お年寄りの地元暮らしに役立つガイド本「まちのて」を発行しました。

町のサービス以外にも、認知症の症状や予防策、相談窓口などが詳しく掲載されています。

配布場所：高鍋町役場、コンフォール健康センター（高鍋町健康づくりセンター）、高鍋町地域包括支援センター、町内の金融機関、コープみやざき高鍋店、T S U T A Y A たかなべ店など

※町ホームページでも見るができます。



▲ガイド本「まちのて」

認知症地域支援推進員の図師いくみさんにお話を聞きました



認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう「高鍋町だったら安心!!だって認知症にやさしいまちだから!!」をモットーに、認知症地域支援推進員として啓発・普及活動に力を入れています。

認知症は、私たち自身や家族、身近なところにも起こりうる病気です。地域全体で認知症に対する関心を高め、正しく理解し支え合えるまちを作っていきましょう!!

認知症について気になることや困りごとがあった際には、高鍋町役場別館 1 階の地域包括支援センター（☎32-6600）までお気軽にお声掛けください。

若い方にも興味をもってもらえるよう F a c e b o o k でも情報発信しています。詳しくは右のQRコードを読み込んでみてください!



▲高鍋町社会福祉協議会
Facebookページ

「町民の日」記念式典・高鍋町社会福祉大会

10月1日、たかしんホール（高鍋町中央公民館）で第54回「町民の日」記念式典・第53回高鍋町社会福祉大会が挙行政され、町の発展に功績を残された15人が表彰されました。

表彰式後に、参加者全員で町民憲章を朗読、町民歌を斉唱し町のさらなる発展を願いました。受賞者は次のとおりです。



◆一般受賞者

【町行政部門】

白石 秀人さん 高橋 賢治さん 徳久 信義さん
河野 幸雄さん 竹原 則夫さん

【産業経済部門】

森 清一さん

【教育文化部門】

杉田 淳子さん

【民生部門】

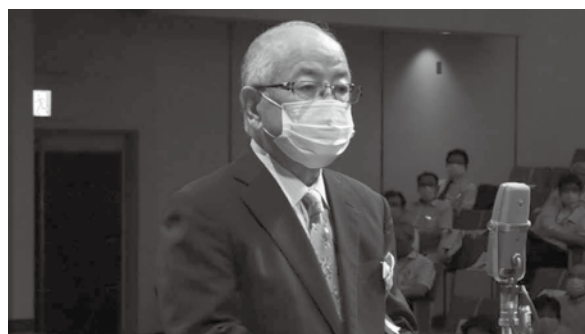
竹原 則夫さん 幸丸 公子さん
木俣 靖博さん

◆福祉関係受賞者

児玉 芳雄さん 岩切 義信さん
荒川 真任さん 竹森 宏和さん
富永 修 さん 尾崎 敏弘さん



▲受賞者の皆さん



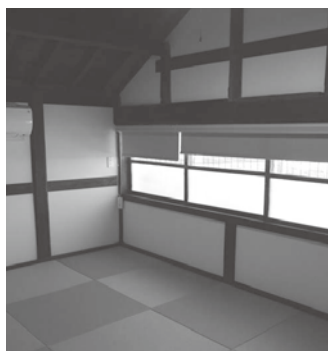
▲受賞者を代表して謝辞を述べる竹原さん

「小澤治三郎生家」改修完成披露セレモニー

町の誘致企業であるエイムネクスト株式会社が行っていた、本町出身で旧日本海軍最後の連合艦隊司令長官である小澤治三郎氏の生家をゲストハウスとして再生する改修が完成し、9月24日には、関係者らによる「小澤治三郎生家」改修完成披露セレモニー及び内覧会が行われました。

生家は木造2階建てで、築150年以上。これまでは親族が管理し、町民からの寄付などで修復工事を行っていました。現在は同社のゲストハウスとして利用していますが、来年度中には、1日最大4人程度が宿泊できるゲストハウスとして運営を始める予定です。

黒木町長は「古民家再生の大きな事例として、町も支援していきたい」と話しました。同社の清社長は「歴史や文化を将来につなげることができた。利用者に高鍋のことを知ってほしい」と話されました。



▲2階の和室



▲お風呂は檜風呂



▲外観



▲セレモニーの様子



▲広々としたキッチンも完備



▲リビングにはダイニングセットが2つ



▲住所 〒880-0001
高鍋町大字高鍋町573番地